

旭川東高だより

No.162

http://www.ah.hokkaido-c.ed.jp/

PTA事務局 〒070-0036 旭川市6条通11丁目 ☎23-2855

シマレ
ガンバレ

目次

- 1頁 校長祝辞/PTA会長祝辞/卒業生を代表して(全・定)
2頁 卒業担任より(全・定)
3頁 卒業生へ贈る言葉(全・定)/予餞会/退職によせて

- 4頁 学校祭/全校応援/急が大会
5頁 見学旅行/定時制だより
6頁 部活動報告

祝 辞

回り道のその先に



校長

三条 歩

卒業生の皆さん、保護者の皆様、卒業おめでとございませう。新たな旅立ちに大きな期待とエールを送ります。

皆さんは、学校標語「シマレガンバレ」のもとに、自己目標を高く掲げ、学びへの真摯な姿勢と進路実現に「挑戦」する意識を堅持し、何事にも全力を尽くす中で、逞しく成長したと思います。三年間の努力に心より敬意を表します。

さて、それぞれの人生に旅立つ皆さんには、失敗や挫折は当たり前だという生き方をし、新しいと願っています。再生医療につながるiPS細胞を生み出し、ノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学の山中伸弥博士でさえ、手術が下手で整形外科医を断念したことに始まり、希望する留学先に断られ続けた、出口の見えない研究でうつ病になりかかったりと、その人生は挫折と失敗の連続だったそうです。

研究の世界では、一つの仮説を検証するために、実験を繰り返して、データを収集して、分析するなど、膨大な手間と時間がかかります。仮説を証明できないこともあります。これは研究の世界だけの話ではありません。皆さんが生きていく社会でも、物事が順調に進むのはまれで、やっただけが無駄だと思ふことや、八方ふさがりで絶望的になることも多くあります。しかし、失敗や無駄だと思える回り道こそ成功の鍵が隠れていることがあります。

これから皆さんは、夢を実現するための新たな扉を開こうとしています。扉の先は険しい道かもしれませんが、うまくいかなければ、困難に對してもあきらめない生き方ができるはずです。是非、本校で学んだことに誇りと自信をもち、物事を肯定的に捉えて、人生を積極的に歩んでください。卒業生の皆さんの活躍とご多幸を心より祈念します。

旅立ちのエール



PTA会長

北岸 睦

まだ寒さと雪が残る二月の旭川ですが、新たな旅立ちを迎えた東高卒業生の皆さん、卒業おめでとございませう。そして新型コロナウイルス感染症による学校生活の制約・制限がありながらも、無事卒業まで子どもたちを導いて頂きました教職員の皆様には大変感謝申し上げます。

さて、昨年四月の法律改正で成人年齢が十八歳に引き下げられたことにより、卒業される皆さんは国内社会ではもう成人として扱われることになりました。成人となったことで、自分自身の行動に対する責任や社会活動への参加などが自分の意思で決められることになったのです。しかしながら、ようやく今高校生活が終わり、まだまだ社会での経験が少ない皆さんは、これから社会へと羽ばたいていく、いわば準備期間ともいえます。

これからの人生においてさまざまな局面に遭遇し、つらいこと、楽しいこと、悲しいこと、うれしいことを幾度も経験していくことでしょう。その中で、たとえこの先困難な状況に迫られることがあっても、奥底で培ったシマレガンバレの精神で努力を続け、高校生活をやりきった皆さんならば、自分を信じて決断できるはずです。

そんな皆さんにプロ野球やメジャーリーグで大活躍し、数々の偉業を打ち立ててきたイチロー選手の言葉を紹介します。

「壁というのはできる人にしかやっつけない。超えられる可能性がある人にしかやっつけない。だから壁があるときはチャンスだと思っている。」

これまでの、そしてこれからの頑張りが、この先立ちがはたか壁を必ず超えていくことができること、次の世代へと明るい未来を切り拓く皆さんの活躍を私たち親は、心より応援し、そして楽しみにしております。

何者かになる旅



全日制3年

齋藤 時広

今振り返れば、本当に3年前に入學してきたのかと疑問に思うくらい高校生活は一瞬だった。何を考え生きていたのか、どんな気持ちで生活していたのか。きつとどんな時も心を取り巻く何かがあったはず。しかし今その記憶を京明に思い出すことはできない。

卒業を目前にする今だからこそ、高校生の自分が自らに課した事は何だろうか、という極めて観念的な問いの答えを先の記憶を辿って出そうとしている。ただ一向に出てくる気配は無い。なんて自身の無い人生を送ってしまったのだろうかと思きたくなる。しかし、こんな悲観的な自分はこの原稿を書き終えた頃にはもういないのだろう。自分の手には高校生活への感謝や反省を込めた上回る希望がある。

何者かになりたい。そんな漠然とした希望を持てる環境に感謝をして、私は胸を張って京明に別れを告げたい。ありがとう東高。そしてさようなら。

4年間の学校生活を終えて



定時制4年

佐々木 友

4年間のうち、3年以上にわたって新型コロナウイルスの影響で制限が加えられた学校生活でした。しかしその間、生徒会長として2期勤め、学校祭やレクレーション大会などみんなで知恵を絞り楽しい時間を過ごした。バイトと学校の両立が辛く大変なこともあったけれどクラスメイトと楽しく学び合えたことが成長に繋がった。思い出に残るものとなりました。最後に卒業するまで、お世話になった先生方、給食調理員の方、クラスメイトのみんなに本当にありがとうございます。愛しています！

卒業担任より



学年主任・1組担任

渡部 真紀

73期生のみなさん、コロナの影響で異例づくめの3年間となりました。宿泊研修は中止（けれども楽し！）旭東フロンティア2020が開催できませんでした！、1年次の東高祭も中止、2年次の東高祭は生徒と教員のみ（動線を決め、密を避け・・・）執行部お疲れ様！、見学旅行は自主研修なし（でもとてもスペシャルな内容で、人生最高の思い出！）楽しすぎて頭がおかしくなりそう！という感想もありました。3年次の学校祭のクラス展示、山車・見事でした。そして野球部の活躍で都合5回の全校応援！！

こんなインレギュラーな3年間を送った私たちは、状況に際し修業年度に、工夫しやり抜く方を磨いてきました。どうぞその力をこれからの人生でもますます磨き、この世界を少しでもよくするために、存分に活躍してください。世界があなたたちを待っています。卒業おめでとうございます！！

2組担任
吉田 誠

卒業おめでとうございます。
「難」しいことはやさしく、やさしいことは深く、深いことは愉快なことは真面目に（井上ひさし）の言葉に「熱く（うさぐさ）」を加えて通じてきました。それは本当の自分と向かい合う勇氣が試された時間でもありました。皆との3年間は理想の自分を求めた修行感情や効率性、周囲の目などは意味をなさず、弱い自分を強く見せたり、格好のつく言い訳をしたり、そもそも弱い自分から目を逸らすような小さなプライドは、無意味なことを気づかせてくれました。充実した楽しい時間をありがとうとございました。
保護者の皆様にも大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。



3組担任

飯田 一三

卒業おめでとうございます。
私自身、人生で5回目、東高では初めての卒業生を送り出すことになりました。5回とも思い出になる生徒ばかりです。個性豊かな子が多かったですね。私は皆さんがあのままに、自分の素顔を隠さなくてもいい場所を提供し、ノビノビとした環境を整えるのが第一の仕事と考えてきました。それが自分にとっていい人、逆に道徳を言わないので戸惑う人、どちらともいいたことでした。今の世の中はより不条理になっているな、と思います。だからこそ、信頼のできる仲間、東高生の仲間が必要なのかな。たまには遊びに来なさい。愚痴をいっぱい聞いてあげるから！



4組担任

富田 一茂

卒業おめでとうございます。たった1年の担任で、どれだけみなさんの役に立つことができたかわかりませんが、私にとっても充実した1年間でした。コロナ禍で不自由な学校生活の鬱憤を晴らすかのような行事での活躍はとても印象に残っています。3年ぶりに山車作りと仮装行列が行われた学校祭では、初めての作業であったにもかかわらず、さすがに最上級生と思える作品でした。野球の応援も過去最高の盛り上がりで、あの興奮はまだ記憶に残っています。クラスの生徒に元気をもらい続けた1年間でした。どうもありがとう。



5組担任

山下 元

卒業おめでとうございます。担任としては最後の1年間だけでしたが、思い返せば随分とたくさん思い出ができました。入学直後からコロナの影響を受け、登校できない皆さんに、黒田先生と相談し、教科書から英単語などの課題を出し、テスト範囲としました。あのようなことは教員生活で初めてで、戸惑いがありました。皆しっかりと取り組んでくれました。2年では12月に延期し何とか実施できた見学旅行、寒い時期の見学旅行はこれもまた初めて、UJの出口で、寒風にブルブル震えながら、皆の帰りを待っていたのはさすがに身体に堪えましたが、「人生で一番楽しかった」という感想は忘れられません。3年では仮装行列や山車製作を復活させた東高祭でしょうか。皆の気持ちと努力で、ターニングポイントになるものを自分たちで創り出したのだなと感銘しました。

6組担任
深山 尚仙

コロナ禍での高校生活を振り返るとかわかると思いますが、人生いつ何があるかわからない。でも何があってもなんとかなるし、なんとでもなる。ただ、でき得る準備はしっかりと、でしたね。卒業を迎えた皆さんに、アంత二二第本氏の名目の一冊を、一迷わず行けよ、行けばわかるさ。」

人間万事塞翁馬。自分が最も気に入っている言葉の一つです。一つの出来事で、善一變せずには自分をきちんと見据えて生きるのが大切だ。位に私は解釈しています。例えば受験で合格したというところは、多分君たちが生きてきた中で最高の喜びであったでしょうが、自分を戒めることを忘れていたことが悔いを抱くことにつながりかねません。逆に残念ながら失敗した人、その先は開けはかりではありませんが、その失敗をバネにもっと突き出るものをつかめば、一輪の虹に輝きます。これが出来るのです。これからの人生、何があるかわかりませんが、福と感じる時には心を戒めることを、禍と感じたときには希望を持って、自らを決して粗末にしない生き方をして下さい。中国四千年の歴史を生き抜いてきた言葉です。最後になりますが、卒業おめでとうございます。



定時制 4年担任

村上恵美子

卒業おめでとうございます。4年間よく頑張りました！と一言で言い尽くせない程の日々の努力を積み重ねてきました。一人一人みんな気配りがあり仲が良くて、一言で言えば「和気藹々」なクラスでした。早朝からの仕事の疲れも見せず、日々の授業に集中し皆さんと有意義な楽しい時間を過ごすことができた4年間でした。コロナ禍でいろんな制約がある中、いろんな悩みを抱えながらも笑顔で学校生活を過ごしてきたことが、今後の新しい歩みにも道筋をつけていくはずだと思います。自信を持って歩んで行って下さい。



定時制 3年担任

水本 朔

卒業おめでとうございます。私自身初めての担任であり、皆さんは初めての卒業生となります。今思い返せば、壮絶な毎日であったと感じています。ここまで本当に頑張りました。皆さんは、登校前に早朝からアルバイトを行い、登校後も授業へ取り組む日々を過ごしました。学校以外では、高卒認定試験や休日の授業を利用し、3年間で卒業するために努力をしてきたと思います。私が高校生のときのことを思い返してみると、皆さんのやってきたことは本当に凄いことであつたと感じています。最後になりますが、東高定時制で学んだことを忘れず、社会へ飛び立ってほしいなと思っております。卒業後も、笑顔で元気な皆さんでいてください。改めて、卒業おめでとうございます。

「長いようで短かった？」

卒業生へ贈る言葉



「送る言葉」台本

2年5組

高野 晴

「あたたかな春の日差しの中、」から始まるのは母校の小学校の卒業式の一幕です。この言葉が終わるとすぐに数人が立ち上がり、一人ずつ「〇〇としてくれた六年生!」とありつた声で叫ぶのです。それが私の母校の伝統でした。

「あたたかな春の日差しの中、」たくさんの思い出、夢、希望を胸に、旅立とうとしている二年生、在校生からみなさんに、お礼の言葉を送ります。

《代表者起立》

「いつも私たちを支えてくれた、二年生!」

「部活動でリーダーシップを発揮してくれた、二年生!」

「学校祭を全力で盛り上げてくれた、二年生!」

「私たちに目指すべき姿を見せてくれた、二年生!」

「私たちがそんな素晴らしい三年生のことを」

「絶対に忘れません!」

「これからみなさんは、」

「私たちの憧れの先輩です!」

《全員起立》

「全員、」三年生のみなさん、今までありがとうございました。卒業おめでとうございませう。」



「卒業生へ」

定時制3年

柴野 七葉

卒業生の皆様、卒業おめでとうございませう。毎年、コロナ続きで楽しめた行事がなくなることも多々ありましたが、生徒会で様々な案を出し合ったことで、思い出に残る一年になっていたかと思えます。

中でも学校祭は大きな行事であり、周囲からもよく、楽しい一日となりました。そこには、先輩方の盛り上げる姿が最も輝かしく私たちを引っ張ってくれたおかげです。

卒業された後、就職や進学へと道が分かれ高校とは違う世界になり大変だと思いますが、応援しています。頑張ってください。

私たちが在校生に向けて頑張ります。改めて卒業おめでとうございませう。

上映型予餞会



2年2組

濱田 春樹

一月二十七日、予餞会が実施されました。新型コロナウイルスの影響を鑑み、昨年度に引き続き事前撮影、編集した映像を二年生のみで見学するという形で実施となりました。吹奏楽部、ダンス同好会、軽音楽同好会の発表や、応援団によるエール、ほとんどの部局同好会によるショート動画、謎の集団みずぐさ、放送局による企画映像など、どれも個性の強く現れた映像になりました。その結果、二年生の各日R教室で行われた上映会は大変な盛り上がりを見せ、大変な反響がありました。また、予餞会と同時に並行で雪文字の作成も行いました。雪文字制作は一年生によって中庭に彫られた文字に、二年生によって装飾やメッセージの記入が施されたランタンを載せることで作られました。昨年はできなかったランタン制作には、数々完成度の不安がありましたが、いざ集めてみれば、実に百倍以上の質的で心温まるランタンができました。また、一年生による雪文字制作現場にも活気が溢れ、三年生を応援しようという熱意が伺えました。今回の予餞会は、成功だったと思いますが、その一方で反省点も多くありました。一番は、撮影が夜遅くまで長引き、部局同好会の負担が大きくなってしまったことです。これは予餞会を動画化してしまつた弊害と言えます。来年度以降のコロナウィルスの様相次第でもありますが、この形態を続けるのであれば、準備段階から洗練させていく必要があると感じました。

今回の予餞会にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。来年度以降も、より一層お楽しみします。



退職によせて



「母校が増えた」

全日制(地歴公民)

田熊 俊治

1986年4月にスタートした教員生活。気がついたら37年間も経っていました。ついこの間まで18歳だったような気がするのですが、現実には60歳。東高では、10年間で8年間担任を持ち、2度卒業生を出すことができました。楽しくてあつという間、自分のクラスだった子だけでなく、他のクラスや他の学年の子も来て近況を聞いてくれました。教員として本当に嬉しいことです。

また、最後の3年間は生徒会も持たせてもらいました。コロナの時期と重なって、従来のような活動ができないうちでも、執行部の生徒と「旭東2020」、「3年生応援プロジェクト」などの行事や、日R委員会などの日常活動を一緒にできたことが良い思い出です。

15年間勤めた母校小樽南高等学校から、旭川東高に転勤してきましたが、教員として旭川東高を卒業することになり、また一つ母校が増えました。本当にお世話になりました。東高で教員生活の最後を迎えることができて幸せです。ありがとうございました。



「東高に教わる」

全日制(英語)

山下 元

平成22年4月、自らの勤務校としては4校目で、旭川東高に赴任いたしました。13年の月日はまさに矢のごとく流れ、この年度年頭職を迎えることになりました。在職中には保護者の皆様をはじめ、多くの方々に支えられていたこと、また東高最後の年に、卒業担任を持たせていただいたことを心より感謝申し上げます。

思えば、赴任当初より、東高生たちの頑張りに驚かされたことが多かった。ある卒業生がこう教えてくれました。「勉強でも、行事や毎日の生活でも、緩れて疲不足でうまくいかなくて、何度も気持ちが折れそうになったけれど、周りにはいつも、自分よりもっと大変なのに、もっと頑張っている友人がいて、自分だけ途中でやめるなん

て気にはならなかった。東高での3年間があることで、大学でどんなことを学ぼうかとありません。その強さに本当に感謝を受けたことを覚えていいます。

今後は旭川東高が「東高生」を育む学校であることを願い、おれがたがたご挨拶とさせていただきます。



「面白がり」

全日制(国語)

山根有希子

三十八年間の教員生活の最後の七年間を、旭川東高で、向上心旺盛な生徒のみなさんと、生徒以上に学問に情熱に向き合う先生方と共に学ぶ機会をいただけたことは、本当に幸運なことであつたと、心から感謝しています。

七年前、東高生の勉強や諸活動で見せる意力の強さは何なのかを是非探りたい、という思いをもって赴任しました。その答えはさすくに見つかりました。それは「面白がりである」ということです。目の前に示された課題や、新しい取り組み、また、誰かの話を聴く場面など、どこを切り取っても生徒のみなさんは、とにかく面白がり、自分を信じる力にも、次のエネルギーにもなるのだと、「どんな事でも面白がついてやっている人には負けない」私はこのことを東高生から学びました。今後の人生に生かして行きます。ありがとうございました。



「感謝の一言に尽きます」

定時制(数学)

山川 和志

昭和六十一年、道東の鹿追高校を振り出しとして三十七年間の教員生活を送らせていただきました。その間上別商業高校、旭川農業高校、深川西高校、そして旭川東高校定時制と様々な地域、学校規模、また校種を経験してまいりました。その間どの学校でも生徒、保護者、地域の皆様、また同僚の教職員に温かく接していただき、本当に感謝感謝の教員生活でありました。

本校への赴任は昨春でしたので一年という短い間ではありましたが、定時制という今まで経験したことのない空間で、戸惑いことも多かったですが、得るものもとても多い、充実した一年でありました。あらためてこれまでの教員生活で関わったすべての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。また今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

学校祭での学び



1年5組
清水 花菜

東高の一大行事学校祭。私は執行部員として携わりました。東高の学校祭は伝統ある素晴らしいものです。今年度の学校祭はコロナ前以来となる山車や仮装行列の実施、チケット制による一般公開が復活しました。今学年誰一人として知らない、ましてや先生方も多くは知らないコロナ禍前の学校祭。過去の資料と見比べながら執行部員OB・OGの方々の話もたくさん聞きました。コロナ禍でできる最高の学校祭を作り上げようと、執行部一同全力で活動しました。時には、スケジュールを念入りに組んでいてもうまくいかないこともありましたが、成功するか失敗に終わるかかわからないことも挑戦し続けること。これは、コロナ禍の学校祭であ

るからこそより感じられたとても大切なことでした。

こだわって実現させるものには必ず時間がかかります。しかし、学校祭期間中は全校生徒の皆さんが感じているように時間が限られていきます。その中で学校祭をより楽しんでもらうための最善の選択は何か。その答えを決めるのが運営の立場に立つ執行部の責務であると学びました。

ギリギリと太陽が照りつける朝から、真っ暗になった夜までたくさんの仕事を同時並行させ、何一つ手を抜かない先輩方。たくさん思い悩むその背中が、私が今後追うべきものであれどもあり、目標でもあると強く感じました。

現在、来年度の学校祭に向けて会議を行っています。今年度学んだ様々なことを活かし、計画そして実行していきたいと思えます。良い学校祭の実現に向けて尽力していきます。



旭川東を、応援します



2年2組
小林紗和子

桜葉エンジンで、「全校応援」として機嫌する、「行きたくない」「あんまり嫌い」など。ネガティブなワードが機嫌補正として上がってきます。たしかに、野球部員に知り合いがいない、そもそも野球に興味がない人にとって、全校応援というものは嫌なものとして目に映ってしまうのも仕方ないことではある。しかし、旭川東の生徒は非常に意欲的に応援に参加し、あまづさへ何人も生徒が応援団、吹奏楽部、ダンス同好会を取り囲み、息を合わせて、一緒に頑張ってくれました。また団長ではなかった私にとって、それはとても心強く、より一層、一件となつて応援に熱を込めることができました。来年度もより熱く、より楽しく応援をして、青春のページを飾りたい所存です。

グレイやモンディに降り注ぐスプリングカラーの水にかかる美しい虹や、スタジアム球場への道のりで溶けたさわやかな風、球場に響き渡るメガホンとメガホンとがぶつかり合う音は今でもよく覚えていています。全校応援で得られる感動と情熱は、高校生の今だからこそ体験しておくべきものなのかな、とも感じました。

今でこそ厳しい冬木道を越えて、雪が解けるのを待つばかりですが、真夏の旭川には激しい陽光が射し、北の大地とは思えないほどの気温を感じました。記憶しています。そんな中でプレーしていた選手たちも、旭川東を応援していた生徒、教員、保護者の方々にすべてに感謝とアツいエールを送りたいと思います。私たちに全校応援の力を貸してくれてありがとうございます。

フレレ、フレレ、旭東。



急歩大会を終えて



1年4組
前畑 朋輝

私はこの急歩大会が自分にとって自信をつけることのできた大会となりました。約15キロの距離を走るという経験が今までなかったため、どのくらいペースで走るのかなど何もかもが手探りの状況でした。わからないながらも、私は1時間を超えたいという目標を立てていました。スタートしてから、私は5人の中、3人が同じペースで走っている仲間だったので、助け合いながら一定のペースを保ちつつ、12キロ地点まで走ることができました。10キロ以上の距離を走る大会だと互いに牽制し合い中々ペースが上がらないという展開が見受けられますが、私たちの集団ではそのような雰囲気はなかったです。むしろ団体競技のようなまとまりがあったので、仲間意識を感じながら走ることもできました。12キロを過ぎたあたりで集団から抜け出し、スピードを上げて走ることでできました。走っている途中、暑熱した疲労で足の痛みを感じていましたが、それを押し切つて走り続けることができた時のあの達成感は今まで味わったことがない貴重な経験となりました。一方で、仲間意識を感じながらも自ら集団を引っ張る積極性がなかったため、来年は自分から安定したペースを作れるように頑張ります。最後にこの急歩大会で貴重な経験をできたのも神宮に拠つて下さった沢山の皆様のおかげだと思っております。とても感謝しています。来年度の急歩大会で良い成績を取ることができるよう仲間と日々の部活を楽しく、一歩一歩に進んでいきたいと思います。



2022年見学旅行

2年6組
阪本 直央

暖かな日差しが窓から差し込み、小鳥のさえずりで目を覚ます。2022年10月19日、我々第2学年は4泊5日の見学旅行に出発した。

初めての3日間、関西に滞在した。初めての訪れた関西は何より飯がうまかった。本場の串カツやお好み焼きに舌鼓を打ち、京都では加川にはない歴史的な建造物を目撃して、機の中にある和を重んじる心を思い起こさせたような気がした。人生で初めて訪れたU.S.J.には、幼少期に見た映画の世界が目の前に広がっており、気づけば涙が、ツーンと頬を伝うのを感じた。

22日からは関東へ降り立った。関西とは違い何回も訪れたことがあるため、今までの慣れたさから一変し、心の中にある程度の余裕が生まれた。当時の大河ドラマは鎌倉を舞台にしている鶴岡八幡宮では亡き頼朝公と偉大な鎌倉の一族たちの歴史を直に感じることができ、時の流れの儚さを感じた。更行動で東京では、立ち昇



るビル群と湧き上がる情熱に僕の心を轟動させるには十分だった。そんな見学旅行だったが、私が学んだことはただ一つ、それは旅行の重要性だ。この日本に満ち満ちている雄大な自然、溢れんばかりの人々の愛情、そして、日本各地に広がる多様な文化、これらは、旅行をすることで一気に感じることが出来ると私は考える。そうすることで、社交性や体力、免校力といったように人々の心身共に鍛え上げることが出来ると思う。将来的に、日本全国を旅してまわるのもいいかもしれない。

最後に、先生方を始めとして旅行に携わって下さった沢山の方々、そして何より、私たちを送り出して下さった家族の助けがあつてこそこの見学旅行でした。本当にありがとうございます。この旅行で得たことを生かしてこれからの生活を過ごしていきたいです。

定時制だより

4年生7名、三修制の3年生3名、計10名のみなさん、卒業おめでとうございませう。保護者の皆様におかれましても、晴れて卒業を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

仕事と学業の両立は簡単なことではありません。疲れて授業中に寝てしまったこと、テストに向けて十分に勉強する時間が取れなかったことなど、苦労は多かったのではないのでしょうか。それでも、こつこつと粘り強く努力を続けた結果、今日という日を迎えられるのです。今年度は、欠席が二日、遅刻早退が八回以内のものに与えられる「精進賞」を受賞する卒業生がいます。在校生にとつて、大きな刺激です。卒業生のみなさんには、四年間ないし三年間、登校し続けたことを誇りに、卒業後も白眉を持つて活動して欲しいと思います。

さて、定時制では給食があり、二名の調理員さんが、生徒たちの健康や嗜好を考慮したメニューを毎日提供してくれています。十二月と一月は、卒業予定者のリクエストで、ラーメンや揚げパンなどの人気メニューが並び、大盛況でした。ただ、もう食べられないことを残念がる卒業生も多く見られました。



一月二十七日には、生徒会主催の「卒業を祝う会」が開催されました。学校生活を振り返るスライド上映では、懐かしい自分の写真を見て歓声や叫び声が上がりました。在校生からのメッセージが書かれた色紙を一人ずつ渡され、名残惜しうにじつくりと読んでいました。先生方から卒業予定者への一言では、「まだ卒業は決まっていますよ」とクダを刺さされつつ、思い出話に花が咲いていました。



高校卒業は、ゴールではありません。ありきたりなことですが、卒業によって社会生活がスタートします。社会に貢献できる人材の育成を目指し、今後も教職員一同、教育活動に誠心誠意取り組みます。

部活動報告

【全道大会】

[illegible][illegible][illegible]

【全国大会】

[illegible]